

佐渡市教育長賞

税金について考えてみる

佐渡市立佐和田中学校 3年 伊藤 柚璃

「税金はなぜ必要なんだろう。」と思うことがある。所得税や消費税、法人税など、いろいろな税金があるが、中学生の私たちに一番身近な税といたら、消費税だろう。好きなお菓子だとか、漫画や本を買うときに必ず税金を払う。それが「消費税」だ。好きなものを買うだけなのに消費税を払わなければいけないのは少し納得いかない。税がなくなつて、生きていけるだろうと思っていた。しかし、税金がなかったら、救急車や消防車を呼ぶのにもお金がかかる。ごみ収集車もないから街中がごみ屋敷のようだ。そんな所には絶対に住みたいと思わない。そう考えてみたら、税金は必要だし、自分もしっかり払わなければと思うようになった。

日本の収入は、租税と印紙収入が全体の約6割を占めている。消費税は、20.4%を、所得税が18.4%だ。これら税金を含めた国の収入は、もちろん使われる。どんなことに使われているかという、社会保障や防衛関係費、文教や科学振興などだ。詳しく言えば、年金や介護など高齢者やその家族への保障、医療や少子化対策にも使われる。また、義務教育である小学生や中学生へ教科書を無償提供するなど、いろいろな場面で税金が役立つ。赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんになるまで税金と関わりながら生きていく。常に税金について考えることは難しいが、少しでも税金の大切さとか、ありがたみを感じながら生活していきたい。

世界の消費税をみると、一番消費税が高いのは、ハンガリーの27.5%だ。日本と22%ほど違う。日本と外国で税金にこんなに差があることにとても驚いている。

税金について調べていると、外国のおもしろい税を見つけた。ハンガリーには、国民の肥満防止を目的とした「ポテトチップス税」があるらしい。日本では、明治時代頃に「犬税」がつくられた。

日本の税金の歴史を詳しく調べてみよう。飛鳥時代の「租・調・庸」や、関所で「関銭（通行税）」を払ったりしていた。通行税とは違うが、今は、高速道路でお金を払わなければいけない場所がある。昔の税金のシステムが変わった形で今も使われているんだなと思った。

税金は、警察署、消防署、市役所、公立病院、公園、ごみ処理施設、道路や橋の整備など安全に関わる面で使われている。他にも、学校の机や椅子、黒板や教科書など未来を担う私たちのためにも使われる。

「税金なんて必要ない」と思っている人は、もっと税金について調べたり、向き合う時間が必要だと思う。日本中の人々が幸せに暮らしていくためにも、税金のことを調べてみてほしい。